

前沢知子 AIR 野辺山参加

作品キャプション

組替え絵画 2015—共存／境存

ワークショップで出来た素材で制作 ワークショップ協力：東京造形大学、信州大学

『もはや日常の至る所に、そして個々の中に、宗教／宇宙は存在している』

長野県野辺山にある国立天文台で、「見えないけれど、日常の至る所に存在にしている電波」があふれる静寂した空間で、この言葉を思い出し、自分の作品と重なりました。「個々の中に、存在している宗教／宇宙」とは、「個々の価値観」です。

出品作品の「組替え絵画」シリーズでは、ワークショップ参加者の行為が軸となっています。作品制作を目的としないワークショップで出来た素材を、トリミングカットなど最小限の制作で作品として仕上げ、空間に合わせて展示しています。ワークショップの内容は、床一面に敷き詰められた巨大な綿布（紙）の上で、参加者が全身で絵具体験（遊び）を行うというものです。制作方法としてワークショップを取り入れている理由は、作品となる綿布（紙）に、偶然できる絵具の痕跡（残物）を作るためです。天地左右など絵画的制作を意識しえない広さの綿布（紙）を床に敷き詰め、その上で不特定多数の参加者が、全身で絵具体験／遊びをします。そして、それらの綿布や紙（痕跡）をトリミングカットなどの最小限の作業で、作品を制作します。ここでは参加者が不特定多数であるため、個（作者）が意味を持ちません。

このようなワークショップで残された素材は、単なる偶然の痕跡（残物）です。そこからトリミングカットなどの作業を通して、作家によって「何か」が拾い上げられます。拾い上げた「何か」は、作品として仕立てられ、空間において展示という位置を持った時、再び鑑賞者／参加者によって「個々の何か」として見いだされ、意味が生まれます。「あると思えば／意識すれば、至る所に存在している」。個々の価値観を通して立ち表れてくるもの。それが作品を通して私が伝えたいことです。

プロフィール

1972年長野県飯田市生まれ。1997年東京造形大学卒業。2015年横浜国立大学大学院在籍中。2000年ダイムラー・クライスラー・グループ「アート・スコープ2000」受賞。2001年東京造形大学校友会留学奨学金授与。2008年～美術から子育てを学ぶ会主宰（2008、2014、2015年世田谷子ども基金授与）。台湾、仏、フィンランドなど国内外で滞在制作。美術から子育てを学ぶ会会長。東京造形大学非常勤講師など務め、前沢知子スタジオ代表。<http://www.tomokomaezawa.com/>

主な展覧会：「恵比寿映像祭」東京都写真美術館、「VOCA展2012年」上野の森美術館、「現代写真の動向2001outer⇄inter」川崎市市民ミュージアム、国立国際美術館、松本市美術館、水戸美術館、府中市美術館、東京オペラシティアートギャラリー、台湾、仏、独他多数。

主なワークショップ：飯田市美術博物館、世田谷美術館、目黒区美術館、東京造形大学、児童館、保育園、図書館他多数

主な執筆：『アートから広がる可能性-美術と子育てと地域』、『写真ぬりえ』など

所蔵作品：ダイムラー・クライスラー日本ホールディング株式会社、ドイツ銀行、和歌山県立近代美術館